第2回開催案内書

第17回世界湖沼会議
（いばらき霞ヶ浦2018）

17th World Lake Conference （Lake Kasumigaura, Ibaraki, Japan, 2018）

人と湖沼の共生 ―持続可能な生態系サービスを目指して―

Harmonious Coexistence of Humans and Lakes - Toward Sustainable Ecosystem Services -

平成30年 10月15日（月）～19日（金） つくば国際会議場ほか

http://www.wlc17ibaraki.jp/

主　催　茨城県　公益財団法人国際湖沼環境委員会（ILEC）

共　催　国土交通省，環境省，農林水産省，
土浦市，つくば市，かすみがうら市，鉾田市，茨城町，水戸市，
霞ヶ浦問題協議会，ラムサール条約登録湿地ひぬまの会

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会

目次

挨拶 …… 02

開催趣旨 …… 03

開催概要 …… 04

スケジュール …… 05

プログラム …… 06

会議前プログラム …… 13

会議後プログラム …… 16

発表募集 …… 17

展示会出展者募集 …… 18

ワークショップ企画募集 …… 18

いばらき霞ヶ浦賞 …… 18

参加登録 …… 19

茨城県の紹介 …… 21

宿泊施設 …… 21

組織 …… 22

案内図 …… 27

今後のご案内 …… 27

問い合わせ先 …… 27

挨拶

第１７回世界湖沼会議実行委員会会長
茨城県知事

大井川　和彦

第６回世界湖沼会議（霞ヶ浦’９５）の開催から２０余年を経て，再び茨城県で世界湖沼会議を開催できますことを，大変光栄に感じております。

これまで，世界湖沼会議では，世界の湖沼とその流域で起こっている多種多様な環境問題の解決に向けて議論を行ってまいりました。

この度の第１７回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦２０１８）では，「人と湖沼の共生ー持続可能な生態系サービスを目指してー」をテーマに，湖沼の有する恵みを持続的に享受するためには，どのようなことに取り組むべきかについて，住民，農林漁業者，事業者，研究者，行政など，湖沼に関わる幅広い関係者が一堂に会し，情報の共有，意見交換を行うことにより，関係者の連携をより一層強化し，湖沼問題の解決に向けた新たな展開に繋げていきたいと考えております。

国内外の政策責任者による「政策フォーラム」，優れた取組みを参考にして流域内及び流域間連携を推進するための「湖沼セッション」，霞ヶ浦の未来像をテーマとして具体的な行動につなげるための「霞ヶ浦セッション」を行います。

また，「分科会」では，生態系や水質，技術，文化，市民活動まで幅広い分野に分かれて，より専門的で具体的な発表や討議を行います。

さらに，先進的な水浄化技術を紹介する「展示会」に加え，県内の主要な湖沼である霞ヶ浦や涸沼などを巡るエクスカーション，未来を担う子どもたちによる会議など，様々なプログラムを御用意いたしました。

本県は，湖沼からの恵みである生態系サービスによって発展してまいりました。この機会に来県いただき，霞ヶ浦やラムサール条約登録湿地の涸沼などの自然が育む農林水産物，歴史や文化のほか，世界でもトップレベルのつくばの科学技術の集積，日立や鹿島地区の産業集積などのバラエティに富んだ魅力を実感していただければ幸いです。

本会議が，新たな知見の集積と展望を拓く会議となるよう，多くの皆様方の参加を心からお待ち申し上げております。

第１７回世界湖沼会議実行委員会副会長
公益財団法人国際湖沼環境委員会理事長

竹本　和彦

日本最大の湖，琵琶湖のほとりに拠点を置く国際湖沼環境委員会は，1986年の設立以来，世界の持続可能な湖沼環境管理を支援するため，各国関係機関と協力し，調査研究活動，人材交流や人材育成を進めてきました。その活動のもう一つの大きな軸となるのが，世界湖沼会議の継続的な開催です。

1984年の世界湖沼環境会議は，琵琶湖をめぐる当時の環境問題に先駆的に取り組んでいた滋賀県行政や県民が中心となり，研究者や企業関係者の幅広い参画の下に，こうしたあらゆる立場の参加者が，地球上の貴重な資源と人間生活の恵みの源である湖沼の持続可能な管理について互いの知見を交換し，その結果を「琵琶湖宣言」として提言しました。

その約2年後に当財団が設立されましたが，多様なステークホルダーが議論を交わすとともに，次世代に向けた湖沼保全への提言を継承すべく，世界湖沼会議が継続して開催され，これまで10ヵ国15都市を巡りました。30年以上の歴史を重ねる中，取り扱うテーマも水質中心の議論から気候変動，生態系サービス等，時代の変化と共に発展してきました。茨城県では，23年前に開催されてより2回目の開催となります。近年，霞ヶ浦および日本の湖沼流域管理の進展に世界の注目が集まっており，本世界湖沼会議に大きな期待が寄せられています。皆さんのご参加を心よりお待ち申し上げます。

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）

開催趣旨

水はすべての生命の基礎であり，人を含む多様な生態系に多大な恩恵を与えてきました。湖沼は，農業や漁業，産業そして文化においても，きわめて重要な資源・資産であり，その環境の保全が重要です。

前回，1995年（平成7年）に茨城県で開催されました第6回世界湖沼会議では「人と湖沼の調和ー持続可能な湖沼と貯水池の利用をめざしてー」というテーマを掲げ，湖沼の利用と環境保全，淡水資源の確保と管理，湖沼の富栄養化や化学物質の影響について議論し，人間と湖沼の調和をとるべく意見交換を実施しました。更に，水環境保全活動の取組や環境教育に焦点をあてたことによって，多くの流域住民や市民団体が参加し，市民活動が活発になる契機となりました。会議以降，市民，研究者，企業，行政4者がパートナーシップのもと水環境問題に取り組み続けています。

近年，世界湖沼会議においては，生態系に関するテーマが議論されています。また生物多様性は人類の生存を支え，人類に様々な恵みをもたらすもので，生物に国境はなく，世界全体でこの問題に取組むことが重要であることから，生物多様性条約が1992年（平成4年）に採択され，情報交換や調査研究等を各国が協力して行っています。

一方，日本においては，水が人類共通の財産であることを再認識し，水が健全に循環し，そのもたらす恵沢を将来にわたり享受できるよう，水循環に関する施策を総合的かつ一体的に推進するために，水循環基本法が2014年（平成26年）7月に施行されました。法律では，「水循環の重要性」，「流域の総合的管理」等を基本理念として掲げ，地方公共団体，事業者，国民それぞれの責務と関係者相互の連携及び協力について定めています。

食料や水の供給等生物の多様性を基盤とする生態系から得られる恵みである生態系サービスを人は享受してきました。しかし，開発行為や気候変動等により生物の多様性は急激に失われつつあります。今回の会議では，人が生物多様性の保全や回復により一層努めることで，生態系が維持される，即ち人と湖沼が互いに支えあう，共に生きていく社会づくり（方策）について議論します。また，生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するためには，どのようなことに取り組むべきなのかについて，住民，農林漁業者，事業者，研究者，行政等湖沼に関わりを持つ全ての人々が，情報の共有，意見交換を行います。

本会議を契機に，様々な立場の者がそれぞれの役割分担のもと，連携がより一層強化され，湖沼問題解決の新たな進展につながることを目指します。

開催概要

(1) テ ー マ	人と湖沼の共生 ―持続可能な生態系サービスを目指して―
(2) 会　　期	平成30年10月15日(月)～19日(金)
(3) 会　　場	つくば国際会議場
(4) 公 用 語	英語及び日本語
(5) 主　　催	茨城県, 公益財団法人国際湖沼環境委員会(ILEC)
(6) 共　　催	国土交通省, 環境省, 農林水産省, 土浦市, つくば市, かすみがうら市, 鉾田市, 茨城町, 水戸市, 霞ヶ浦問題協議会, ラムサール条約登録湿地ひぬまの会
(7) 後　　援	国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所, 水循環政策本部, 外務省, 独立行政法人水資源機構, 滋賀県, 茨城県市長会, 茨城県町村会, 茨城県市議会議長会, 茨城県町村議会議長会, 茨城県河川協会, 茨城県女性団体連盟, 茨城県地域女性団体連絡会, 大好きいばらき県民会議, 世界湖沼会議市民の会'１８, 国立大学法人茨城大学, 国立大学法人筑波大学, 国立研究開発法人農研機構, 国立研究開発法人土木研究所, 国立研究開発法人国立環境研究所, 国立研究開発法人科学技術振興機構, 公益社団法人土木学会, 公益社団法人農業農村工学会, 公益社団法人日本水産学会, 公益社団法人日本水道協会, 公益社団法人日本技術士会, 公益社団法人地下水学会, 公益社団法人日本下水道協会, 公益社団法人日本水環境学会, 公益社団法人日本地球惑星科学連合, 一般社団法人日本土壌肥料学会, 一般社団法人日本生態学会, 一般社団法人日本リモートセンシング学会, 日本農学会, 環境経済・政策学会, 応用生態工学会, 日本湿地学会, 日本環境教育学会, 株式会社茨城新聞社, 毎日新聞社, 読売新聞社, 東京新聞水戸支局, 一般社団法人共同通信社, ＮＨＫ水戸放送局, 株式会社茨城放送 (平成３０年３月７日現在　４４団体)
(8) 関連行事	サテライト会場 環境関連行事　平成30年5月3日(木・祝)～10月13日(土) 学生会議　平成30年10月14日(日) オプショナルツアー　平成30年10月20日(土)～21日(日)

スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>区分
日程</th><th>午前</th><th>午後</th><th>夜</th><th>終日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">会議前プログラム</td><td>5月3日(木)～10月13日(土)</td><td colspan="4">サテライト会場　環境関連行事</td></tr>
<tr><td>10月14日(日)</td><td colspan="2">学生会議
登録受付</td><td>歓迎パーティー</td><td>ー</td></tr>
<tr><td rowspan="5">第17回世界湖沼会議
(いばらき霞ヶ浦2018)</td><td>10月15日(月)</td><td>開会式</td><td>いばらき霞ヶ浦賞授与式</td><td>基調講演
湖沼セッション</td><td>レセプション</td><td rowspan="2">展示会</td></tr>
<tr><td>10月16日(火)</td><td colspan="2">政策フォーラム
分科会</td><td>湖沼セッション</td><td>ワークショップ(自主企画)</td></tr>
<tr><td>10月17日(水)</td><td colspan="3">エクスカーション(視察)</td><td>ワークショップ(自主企画)</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>10月18日(木)</td><td colspan="3">霞ヶ浦セッション
分科会</td><td>参加者交流会</td><td rowspan="2">展示会</td></tr>
<tr><td>10月19日(金)</td><td colspan="2">会議総括</td><td>閉会式</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>会議後プログラム</td><td>10月20日(土)～21日(日)</td><td colspan="4">オプショナルツアー</td></tr>
</table>

重要日程

平成30年3月30日(金)　：学生会議発表募集締切(一次募集)
平成30年4月20日(金)　：霞ヶ浦セッション発表募集締切
　　：分科会発表募集締切
平成30年4月27日(金)　：学生会議発表募集締切(二次募集)
平成30年5月7日(月)　：ワークショップ企画募集締切
平成30年5月31日(木)　：展示会出展者募集締切
平成30年6月下旬―7月上旬　：採択結果通知(学生会議・霞ヶ浦セッション・分科会)※1
平成30年7月16日(月)　：早期参加登録締切 ※2
平成30年9月14日(金)　：事前参加登録締切 ※2

※1：採択通知の時期は前後する可能性があります。予めご了承ください。
※2：エクスカーション，歓迎パーティー，参加者交流会及びオプショナルツアーは参加登録時にお申し込みください。
なお，申込多数の場合，ご希望に添えない場合がございますので，予めご了承ください。

プログラム

(1) 開会式	日　時　平成30年10月15日(月)　10:30～11:30 会　場　つくば国際会議場　大ホール
(2) いばらき霞ヶ浦賞 授与式	茨城県では，開発途上国の10編以内の優れた論文に対して表彰状及び副賞を授与します。 日　時　平成30年10月15日(月)　11:30～12:00 会　場　つくば国際会議場　大ホール
(3) 基調講演	日　時　平成30年10月15日(月)　13:10～14:10 会　場　つくば国際会議場　大ホール 講演者：三村　信男　茨城大学長
(4) 政策フォーラム	発表を踏まえコーディネーターを中心にパネリストによる討議を行い，最後に今後の湖沼環境保全政策の方向性について総括します。 日　時　平成30年10月16日(火)　9:30～12:00 会　場　つくば国際会議場　大ホール 【発　表】発表者：大井川　和彦　茨城県知事 国内の政策責任者3名(国土交通省，環境省，農林水産省) 国外の政策責任者1～2名(国際連合環境計画等) ・Keith Alverson　国際連合環境計画国際環境技術センター所長 ・外1名 【討　議】コーディネーター：松井　三郎　世界湖沼会議企画推進委員会委員長 パネリスト：上記発表者 テーマ：政策責任者の立場から世界湖沼会議のメインテーマである「人と湖沼の共生」について議論する。
(5) 会議総括	日　時　平成30年10月19日(金)　10:00～12:00 会　場　つくば国際会議場　大ホール
(6) 閉会式	日　時　平成30年10月19日(金)　13:00～14:00 会　場　つくば国際会議場　大ホール

(7) 湖沼セッション

国内外の湖沼流域関係者の情報共有を図り，流域内及び流域間連携を推進するために，国内外の主要な湖沼流域の市民，行政，研究者及び企業等が活動内容や施策等について討議します。

日　時　平成30年10月15日(月)　14:30～17:00(国外湖沼)
　　平成30年10月16日(火)　13:10～17:00(国内湖沼)

会　場　つくば国際会議場　大ホール

テーマ　「人と湖沼の共生 ～持続可能な生態系サービスを目指した流域内及び流域間連携のあり方～」

国外湖沼

事例発表

湖沼流域管理をめぐる取組の経緯と現状及び今後の展開についてオセアニア，アフリカ，ラテンアメリカにおける事例を中心に紹介します。

発表者：Colin Finlayson　チャールズ・スタート大学教授　(オーストラリア連邦)
　　Daniel Olago　ナイロビ大学教授　(ケニア共和国)
　　Alejandro Juárez　NGOコラソン・ディ・ラ・ティエラ理事長　(メキシコ合衆国)

パネルディスカッション

世界の湖沼と生態系サービスを巡る動向について討議します。

コーディネーター：中村　正久　公益財団法人国際湖沼環境委員会副理事長
パネリスト：Ajit Pattnaik　ウェットランズ・インターナショナル南アジア副会長　(インド)
　　Walter Rast　テキサス州立大学名誉教授　(アメリカ合衆国)
　　Colin Finlayson　チャールズ・スタート大学教授　(オーストラリア連邦)
　　Daniel Olago　ナイロビ大学教授　(ケニア共和国)
　　Alejandro Juárez　NGOコラソン・ディ・ラ・ティエラ理事長　(メキシコ合衆国)

国内湖沼

事例発表

持続可能な生態系サービスを目指した各湖沼の様々な主体の連携した取組の現状や施策，今後の課題，課題解決に向けた展望等について発表します。

発表者：サテライト会場(茨城町(涸沼))関係者
　　サテライト会場(水戸市(千波湖))関係者
　　NPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)
　　近藤　昭彦　千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授
　　株式会社日立製作所
　　滋賀県
　　秋田県仙北市

パネルディスカッション

持続可能な生態系サービスを目指して，流域内及び流域間連携を推進するために各主体がどう連携していくべきか討議します。

コーディネーター：福島　武彦　茨城県霞ケ浦環境科学センター長

パネリスト：中村　正久　公益財団法人国際湖沼環境委員会副理事長
　　環境省水・大気環境局水環境課
　　国土交通省水管理・国土保全局河川環境課
　　井手　慎司　滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科教授
　　奥田　昇　総合地球環境学研究所 准教授
　　NPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)
　　株式会社日立製作所

(8) 霞ヶ浦セッション

霞ヶ浦における流域内連携を推進するために，霞ヶ浦流域関係者が霞ヶ浦の抱える様々な課題を共有し，持続可能な生態系サービスに向けた具体的な行動に連携して取り組むための討議を行います。

日　時　平成30年10月18日(木)　9:30～17:00
(ポスター発表　12:00～14:00)

会　場　つくば国際会議場　大ホール
(ポスター発表　大ホール前ホワイエ)

テーマ　「霞ヶ浦の未来像について」

事例発表

①第6回会議からの霞ヶ浦を取り巻く現状変化やこれまでの取組と成果，現在の課題や課題解決に向けた展望について発表します。

発表者：茨城県
茨城県霞ケ浦環境科学センター
国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所

②霞ヶ浦から恩恵を受けている方々の取組の現状や課題，課題解決に向けた展望について発表します。

発表者：伊藤　一郎　霞ヶ浦漁業協同組合霞ヶ浦水産研究会会長
飯田　公巳　JA土浦蓮根本部会
新日鐵住金株式会社鹿島製鐵所
株式会社かすみがうら未来づくりカンパニー
藤原　正子　茨城県生活学校連絡会会長

③市民団体の発表やサテライト会場からの意見集約を行います。

発表者：世界湖沼会議市民の会'18
サテライト会場(土浦市)関係者
サテライト会場(かすみがうら市)関係者
サテライト会場(鉾田市)関係者
高校生

パネルディスカッション

事例発表により霞ヶ浦を取り巻く現状と問題点を把握するとともに課題を共有した上で，霞ヶ浦流域関係者が持続可能な生態系サービスに向けた具体的な行動に取り組むための討議を行います。

コーディネーター：福島　武彦　茨城県霞ケ浦環境科学センター長

パネリスト：中村　正久　公益財団法人国際湖沼環境委員会副理事長
茨城県
国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所
伊藤　一郎　霞ヶ浦漁業協同組合霞ヶ浦水産研究会会長
新日鐵住金株式会社鹿島製鐵所
株式会社かすみがうら未来づくりカンパニー
世界湖沼会議市民の会'18

ポスター発表

霞ヶ浦流域の市民，行政，研究者等が霞ヶ浦及びその流域の湖沼環境保全のために実施している実践活動の取組内容や研究成果等を発表します。

(9) 分科会
(口頭・ポスター)

研究者や市民団体等が9つの分科会において論文や活動成果の発表及び討議を行います。

日　時　平成30年10月16日(火), 18日(木)　9:00～17:00
(ポスター掲示　16日 9:00～18日 15:00)

会　場　つくば国際会議場　中ホール200, 中会議室201A, 201B, 202A
中ホール300, 小会議室303, 304, 404, 406
(ポスター掲示　大会議室101, 102)

第1分科会 「生物多様性と生物資源」

湖沼, 湿地, 河川及び水辺等の生物多様性や生物資源に焦点をあて, その価値や現状の評価, 保全のあり方等について討議します。

国外招待発表者 : 調整中
国内招待発表者 : 高村　典子　国立環境研究所生物・生態系環境研究センター(琵琶湖分室(生物))フェロー

キーワード
- 生物多様性評価
- 絶滅危惧種
- 侵入外来生物
- 生態系機能
- 生態系サービス
- 生態系ネットワーク
- 生態系管理
- 自然再生
- 生物利用
- 水産・漁業

第2分科会 「淡水資源の持続的利用」

湖沼における水資源の持続的な利用に焦点をあて, 流域において湖沼が持つ水収支や河川流量の調整機能(水量に関わる事項), 流域からの汚染物質や土砂の流入, 化学物質による汚染, 富栄養化(水質に関わる事項), 及び湖沼の管理等について討議します。

国外招待発表者 : András Szöllősi-Nagy　国立公共事業大学校教授 (ハンガリー)
国内招待発表者 : 渡邉　紹裕　京都大学大学院地球環境学堂教授

キーワード
- 水資源の利用・開発
- 表流水と地下水
- 水利用に関わる水質障害と汚染
- 土砂の影響
- 気候変動による影響
- 将来の淡水資源シナリオ

第3分科会 「湖沼の水質と生態系機能」

湖沼の水質に焦点をあて, 湖内の生態系がもつ機能である水質浄化能, 微生物生産, 有機物分解, 底泥酸素消費, 底泥溶出等について討議します。

国外招待発表者 : Fengchang Wu　中国環境科学院教授 (中華人民共和国)
国内招待発表者 : 中野　伸一　京都大学生態学研究センター教授

キーワード
- 生態系機能
- 水質汚濁
- 水質浄化能
- 水質管理
- 一次生産
- 分解
- 底泥溶出
- 栄養塩動態
- 貧酸素
- 透明度
- 富栄養化
- アオコ
- 気候変動

第4分科会 「水辺地域の歴史と文化」

歴史, 文化, 生活, 景観, レクリエーション, 観光利用等幅広く焦点をあて, 湖沼がもたらす文化的サービスについて討議します。

国内招待発表者 : 進士　五十八　福井県立大学長
国内招待発表者 : 安村　克己　追手門学院大学地域創造学部地域創造学科教授

キーワード
- 水辺空間
- レクリエーション
- 伝統
- 文化
- 生活
- 信仰
- 景観
- 観光
- ラムサール条約
- 里山
- コミュニティ・モラール
- 環境ホスピタリティ
- 経済と水運
- 地域づくり

第5分科会 「流域活動と物質循環」

湖沼及びその流域における人間活動に伴う物質循環に焦点をあて，流域と河川・湖沼全体での窒素・りん循環や化学物質等の動態等について討議します。

国外招待発表者： 調整中
国内招待発表者： 大手　信人　京都大学大学院情報学研究科教授

キーワード
- 窒素・りん循環
- 化学物質
- 点源及び面源汚染
- 広域的大気汚染の影響
- 土地利用管理
- 食糧生産
- バイオマス
- 森林保全
- 里山保全

第6分科会 「科学的知見に基づくモニタリング」

湖沼や河川の水質，生態系等のモニタリング技術に焦点をあて，新しい知見に基づくモニタリング手法やそれを支える先進的技術及び解析手法について討議します。

国外招待発表者： David Hamilton　グリフィス大学教授（オーストラリア連邦）
国内招待発表者： 田中　敦　国立環境研究所環境計測研究センター基盤計測化学研究室長

キーワード
- 水質計測技術
- 湖沼・河川モニタリング技術（リモートセンシング，GISを含む）
- 生態系モニタリング技術
- モニタリング体制
- データ解析とモデリング

第7分科会 「生態系サービスの持続可能な利用に向けた対策・技術」

生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するため，排水規制，生活排水対策，農地・畜産対策，流出水対策，浄水技術や排水処理技術，湖内浄化，適正技術，経済的インセンティブ施策等，ハード技術だけでなくソフト対策についても討議します。

国外招待発表者： Brian J. D'Arcy　環境コンサルタント（英国）
国内招待発表者： 岡田　光正　放送大学理事，副学長

キーワード
- 排水規制
- 生活排水対策
- 点源及び面源汚染の制御
- 湖内浄化対策
- 浄水・排水処理技術
- 環境容量に基づく管理
- 発展途上地域における適正技術
- ソフト対策
- 経済的インセンティブ施策

第8分科会 「市民活動と環境学習」

湖沼流域で実践されている市民活動や環境学習に焦点をあて，地域に根ざしてよりよい水環境を未来に残していくための活動とそのあり方について討議します。

国外招待発表者： Chitchol Phalaraksh　チェンマイ大学助教授（タイ王国）
国内招待発表者： 見上　一幸　宮城教育大学長

キーワード
- 市民参加
- 協働
- 里山保全
- 水辺ふれあい
- 地域活性化
- まちづくり
- コミュニケーション
- 人材育成
- カリキュラム開発
- 意識啓発
- 政策提言
- 合意形成
- 自然保護
- 持続可能な開発目標

第9分科会 「統合的湖沼流域管理（ILBM）」

湖沼流域の生態系サービスを維持・保全・向上させるために，流域の全ての関係者が連携的に取り組む「統合的湖沼流域管理（ILBM）」のあり方と，それを支える流域ガバナンスの段階的，継続的かつ長期にわたる向上のための取組について討議します。

国外招待発表者： Jaime "Joey" C. Medina　ラグナ湖開発公社ゼネラルマネージャー（フィリピン共和国）
国内招待発表者： 中塚　則男　関西広域連合本部事務局事務局長

キーワード
- 様々な湖沼流域管理の在り方
- 統合的湖沼流域管理（ILBM）
- 湖沼・湿地・貯水池などの静水系を含む河川流域管理（ILLBM）
- 健全な水循環のための流域管理
- 流域ガナバンス
- ハートウェア・アプローチ
- 生態系サービスと流域政策
- 気候変動と防災・減災
- 湖沼データベース

(10) 展示会

企業や研究機関等の「科学的知見に基づくモニタリング」や「持続可能な生態系サービスに向けた対策・技術」等についての先進的な実例や活動内容等を展示します。

日　時　平成30年10月15日(月) ～ 19日(金)の終日(17日(水)を除く)

会　場　つくば国際会議場　多目的ホール

(11)主催者等の取組展示

霞ヶ浦等における総合的な水質保全対策や, 森林湖沼環境税を活用した取組, 霞ヶ浦流入河川等のモニタリング調査結果, 霞ケ浦環境科学センターの機能や取組等を紹介します。

(12) 交流行事

A. 歓迎パーティー

会議の開催に先立ち, 参加者の皆さんを歓迎するパーティーを行います。会場では, 飲み物と料理をご用意いたします。お気軽にご参加いただき, 参加者の皆さんの交流の場としてご利用ください。

日　時　平成30年10月14日(日)夜

会　場　ホテルグランド東雲　「東雲の間」

参加費　5, 000円
参加登録の際, 併せてお申込ください。

B. 参加者交流会

閉会式前日に会議参加者の交流会を行います。会場では, 飲み物と料理をご用意いたします。最後の交流の機会となりますので, 会議を振り返って国や立場を超えた意見交換の場としてご利用ください。

日　時　平成30年10月18日(木)夜

会　場　つくば国際会議場　大会議室101, 102, エントランスホール

参加費　5, 000円
参加登録の際, 併せてお申込ください。

※レセプション[10/15(月)夜]については, 招待者のみで開催予定ですので, ご了承願います。

(13) ワークショップ

第17回世界湖沼会議の趣旨に沿い, 霞ヶ浦セッションや湖沼セッション, 各分科会で取り上げられなかったテーマや複数の分科会にまたがるテーマ等について, 会議参加者が討議を行う自主企画を公募し, 議論を深めるための場を提供します。

日　時　平成30年10月16日(火), 17日(水)18:00～20:00

会　場　つくば国際会議場　中会議室201A, 201B, 202A,
小会議室303, 304, 404, 406

（14） エクスカーション（視察）

霞ヶ浦流域や千波湖・涸沼沿岸の環境関連施設等の現地視察を行います。

1）霞ヶ浦コース

概　要

国, 県等の水環境保全に係る取組を紹介し, 関連施設の視察を行います。

プレゼンテーション等

場　所 ： 茨城県霞ケ浦環境科学センター

○ ウェルカムランチ

○ プレゼンテーション
各関係機関から水環境保全に係る取組を紹介します。

・茨城県霞ケ浦環境科学センター　・ミュージアムパーク茨城県自然博物館
・茨城県　・国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所

○ パネル展示・意見交換

視察先

○ 霞ヶ浦自然再生事業
○ 帆引き船
○ 茨城県県南水道事務所（浄水場）
○ 茨城県霞ケ浦浄化センター（下水処理場）
○ 湖水直接浄化施設　ほか

2）北浦・涸沼・千波湖コース

概　要

ラムサール条約湿地に登録された涸沼に係る関係機関の取組を紹介するほか, 北浦, 涸沼及び千波湖の視察を行います。

プレゼンテーション等

場　所 ： いこいの村涸沼

○ ウェルカムランチ

○ プレゼンテーション
各関係機関から涸沼のラムサール条約に関連した取組等を紹介します。

・茨城県霞ケ浦環境科学センター　・涸沼ラムサール条約推進協議会
・ラムサール条約登録湿地ひぬまの会　・クリーンアップひぬまネットワーク

○ パネル展示・意見交換

視察先

○ 北浦
○ 涸沼自然公園
○ 霞ヶ浦導水事業
○ 千波湖　ほか

会議前プログラム

① 学生会議

次世代を担う子供たちの水環境に関する意識向上と，身近な湖沼等を誇りに思う郷土愛の醸成を図るため，水や湖沼に関する研究や取組について発表及びディスカッションを実施します。
小学生を対象とする子ども会議と中学生・高校生を対象とする青少年会議とに分かれて実施します。

日　時　平成30年10月14日（日）10:00～17:00

会　場　つくば国際会議場　大ホール
中ホール200，中ホール300
（ポスターセッション　大会議室101，102，中会議室201，202）

参加費　無　料

テーマ　研究・取組テーマ
「水や湖沼に関係した自然，自然の恵みについて」

ディスカッションテーマ
「自然のめぐみ　命を育む水　ー共に生きる未来ー」

募　集

応募資格 〉〉〉 平成30年度に以下（1）～（3）のいずれかに該当する児童生徒
（1）小学校１年生 ～ 小学校６年生
（2）中学校１年生 ～ 中学校３年生
（3）高校１年生　～ 高校３年生

・発表者，研究に取り組む人数に定めはありません。
クラス単位や学年単位での研究，発表も可能です。

提出書類 〉〉〉 ①応募用紙
②研究・取組の概要

・仕様：所定の様式にてA4用紙3枚以内

http://www.wlc17ibaraki.jp/student.html

公式ホームページの学生会議ページよりダウンロードしてください。

提出方法 〉〉〉 上記の書類を第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会事務局宛に郵送してください。

提 出 先 〉〉〉 〒310-8555
茨城県水戸市笠原町978番6（茨城県生活環境部環境対策課世界湖沼会議準備室内）
第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会事務局
学生会議担当

募集期間 〉〉〉 一次募集期間：平成29年11月1日（水）～平成30年3月30日（金）
二次募集期間：平成30年　4月2日（月）～平成30年4月27日（金）※

※二次募集期間の対象は，学校を通じて応募する，平成30年度の中学生1年生及び高校1年生

選　考

選考及び選考結果 〉〉〉 提出された「研究・取組の概要」にて審査を行い，参加団体を決定します。
審査実施後，採択に関わらず，参加を希望された団体全てに審査結果を通知します。

採　否　の　通　知 〉〉〉 平成30年6月下旬から7月上旬（予定）

発　表

発表形式 〉〉〉 ・口頭（発表時間7分，質疑 3分）
・ポスター（展示パネル　横90cm×縦210cm）
・ディスカッション

② サテライト会場　環境関連行事

霞ヶ浦, 涸沼, 千波湖に近接する5市町（土浦市, かすみがうら市, 鉾田市, 茨城町, 水戸市）において, 市民団体等と連携した環境関連行事（環境フェアやシンポジウム等）を開催します。
サテライト会場での活動の成果は, 霞ヶ浦セッションや湖沼セッションにおいて発表していきます。

土浦市

泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル

日　時　平成30年7月16日（月・祝）

場　所　国民宿舎水郷跡地（土浦市大岩田）

内　容
- ハイスクール会議と称し, 県内の高校生が, 将来の湖沼と流域をテーマにディスカッションを行います。
- 中・高校生等による自然・環境科学をテーマとしたポスター展示

茨城県霞ケ浦環境科学センター
夏まつり

日　時　平成30年8月25日（土）（予定）

場　所　茨城県霞ケ浦環境科学センター（土浦市沖宿町）

内　容
- ハイスクール会議の結果報告
- 霞ヶ浦流域で活動する市民団体が, 将来の湖沼と流域をテーマに活動報告やパネルディスカッションを行います。

サテライトつちうらメイン大会

日　時　平成30年10月13日（土）

場　所　L'AUBE（メイン会場）, 土浦港, J:COMスタジアム（以上, 土浦市川口）, アルカス土浦（土浦市大和町）等

内　容
- 市民団体, 国, 県, 市及び企業等が, 霞ヶ浦流域で実施している様々な取組・活動について, パネル展示, 口頭発表, 意見交換等を行います。
- 防潮堤壁画アート, 湖沼写真映像展, 防塵挺身隊によるゴミ拾い, カヌー・ヨット体験, 観光遊覧船, 土浦が好き！ライブ, 第13回土浦市環境展等

かすみがうら市

帆引き船フェスタ
with 世界湖沼会議

日　時　平成30年5月3日（木・祝）

場　所　歩崎公園（かすみがうら市坂）

内　容
- 帆引き船の実物展示, 帆引き船の操業及び随伴船での観覧, 帆引き船の紹介映像,　帆引き船の模型作り教室
- 水産物の試食
- 家庭排水浄化関連展示

帆引き船講演会＆帆引き船シンポジウム
「帆引き船と霞ヶ浦の魚食文化」

日　時　平成30年9月中旬

場　所　農村環境改善センター・歴史博物館（以上, かすみがうら市坂）

内　容
- 漁業, 魚食の研究者, 水産加工・フードコーディネーターの討論を通し, 新たな霞ヶ浦と人との共生関係を模索します。
- 歴史博物館において世界湖沼会議を記念した特別展示「日本漁業史の中の帆引き船」（9月～11月）

鉾田市

鉾田市世界湖沼会議サテライト会場

日　時　平成３０年９月

場　所　鉾田市総合公園（鉾田市当間）ほか

内　容
- 小・中・高校生による環境学習事例発表会
- 市民活動のパネル展示
- 市民活動への参加（７月～９月）
  - ▷ 巴川沿いの森と水の体験学習
  - ▷ ノルディックウォーキングでの北浦周辺の自然観察
  - ▷ ふゆみずたんぼと北浦周辺の自然観察
  - ▷ 北浦周辺の生物・植物の観察会

茨城町

第４回涸沼環境フェスティバル
ラムサールシンポジウム inひぬま

日　時　平成３０年９月３０日（日）（予定）

場　所　涸沼自然公園（茨城町中石崎）

内　容
- 涸沼のラムサール条約登録をテーマとしたシンポジウム
- 小・高校生による事例発表
- 環境団体，事業所，行政の取組についてのパネル展示，涸沼周辺の魚類等の展示
- シジミ汁や地元の農産物等の提供
- 熱気球による涸沼の上空観察，屋形船での涸沼視察
- ハゼ釣り体験

水戸市

水戸市環境フェア2018

日　時　平成３０年６月３日（日）

場　所　千波公園（水戸市千波町）

内　容
- シンポジウム（小・中・高校生，大学生，企業，市民団体等）
- 体験型イベント
  （ボート体験，ビオトープ作り体験，外来種フィッシング等）
- サイエンスショー

会議後プログラム

オプショナルツアー

内　容　参加者に茨城の魅力等を満喫していただくための観光ツアーを企画します。

コース　6コース（1日：4コース，1泊2日：2コース）

申込方法　本会議への参加登録をした上で，オプショナルツアー専用ページからお申し込みください。
詳細は第17回世界湖沼会議の公式ホームページをご確認ください。

（1）1日【平成30年10月20日（土）】

①「満喫！茨城の海」

国営ひたち海浜公園

目的地

国営ひたち海浜公園，
那珂湊おさかな市場【昼食】，
アクアワールド茨城県大洗水族館，
大洗まいわい市場

定　員

40名（最少催行人員：30名）

②「世界一！牛久大仏&秋の味覚・果物狩り体験」

牛久大仏

目的地

牛久大仏，
牛久シャトー【昼食】，
果物狩り

定　員

40名（最少催行人員：30名）

③「ユネスコ無形文化遺産結城紬&ミュージアムパークを巡る」

自然博物館

目的地

つむぎの館，
ビアスパークしもつま【昼食】，
道の駅しもつま，
ミュージアムパーク茨城県自然博物館

定　員

40名（最少催行人員：30名）

④「茨城の味覚とパワースポット観光」

鹿島神宮

目的地

妙岐の鼻，
なめがたファーマーズビレッジ【昼食】，
鹿島神宮，
酒造見学

定　員

40名（最少催行人員：30名）

（2）1泊2日【平成30年10月20日（土）～21日（日）】

①「秋の県北に親しむ」

袋田の滝

目的地

西山荘，（常陸秋そば【昼食】），竜神大吊橋，
大子温泉【宿泊】，
袋田の滝，月待の滝，道の駅だいご

定　員

20名（最少催行人員：15名）

②「秋田県田沢湖・日本の秘湯！乳頭温泉郷」

田沢湖（たつこ像）

目的地

田沢湖クニマス未来館，田沢湖，
乳頭温泉郷【宿泊】

定　員

15名（最少催行人員：10名）

（3）つくば市内・近郊の観光（筑波山，つくば市内研究機関等見学等）

こちらのホームページをご覧ください。

- 一般社団法人つくば観光コンベンション協会　http://www.ttca.jp
- つくばサイエンスツアーオフィス　https://www.i-step.org/tour/index.html

発表募集

分科会（口頭発表，ポスター発表）と霞ヶ浦セッション（ポスター発表）では参加者の皆様からの発表を募集します。

1 分科会

募集要項

公式ホームページの分科会発表募集要項をご参照の上，下記の方法でご応募ください。

提出方法 〉〉〉 http://www.wlc17ibaraki.jp/technical.html
上記URLから案内されるホームページでアカウントを作成し，締切までに抄録やプロシーディングス論文（指定様式あり）等の提出を行ってください。

締　　切 〉〉〉 平成30年4月20日（金）

選　考

選　　考 〉〉〉 分科会への応募受付後，委員会において審査し，その結果を各応募者に連絡します。
なお，希望と異なる分科会での発表や，希望と異なる形式（口頭発表⇔ポスター発表）での発表に変更をお願いする場合があります。

採否の通知 〉〉〉 平成30年6月下旬から7月上旬（予定）

発　表

発表形式 〉〉〉 ・口頭発表（発表時間15分，質疑 5分）
・ポスター発表（展示パネル　横90cm×縦210cm）

2 霞ヶ浦セッション

募集要項

公式ホームページの霞ヶ浦セッション（ポスター発表）発表募集要項をご参照の上，下記の方法でご応募ください。

提出方法 〉〉〉 http://www.wlc17ibaraki.jp/kasumigaura.html
上記URLから案内されるホームページでアカウントを作成し，締切までに抄録やプロシーディングス論文（指定様式あり）等の提出を行ってください。

締　　切 〉〉〉 平成30年4月20日（金）

選　考

審　　査 〉〉〉 応募受付後，審査を行い，その結果を各応募者に連絡します。

発　表

発表形式 〉〉〉 ポスター発表（展示パネル　横90cm×縦210cm）

ポスター発表

霞ヶ浦流域の市民，行政，研究者等が霞ヶ浦及びその流域の湖沼環境保全のために実施している実践活動の取組内容や研究成果などを発表します。

展示会出展者募集

申込方法 〉〉〉 http://www.wlc17ibaraki.jp/exhibition.html
公式ホームページより展示会出展者募集要項をダウンロードの上，所定の「出展申込書」に必要事項を記入し，第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）展示会事務局にE-mail，FAXまたは郵送にて，お申し込みください。

締　　切 〉〉〉 平成30年5月31日（木）

出 展 料 〉〉〉 ・民間企業展示：100，000円/小間
・公的機関展示：　50，000円/小間

ワークショップ企画募集

申込方法 〉〉〉 http://www.wlc17ibaraki.jp/workshop.html
公式ホームページよりワークショップ企画募集要項をダウンロードの上，「ワークショップ開催申込書」に必要事項を記入し，第17回世界湖沼会議（いばらき2018）登録事務局にお申し込みください。

締　　切 〉〉〉 平成30年5月7日（月）

いばらき霞ヶ浦賞

茨城県では，湖沼，河川またはこれらに関連する分野の研究や技術開発の進展及び情報の交換等に寄与するため，開発途上国の１０編以内の優れた論文に対していばらき霞ヶ浦賞（賞状及び副賞）を授与します。
詳細は第17回世界湖沼会議の公式ホームページをご確認ください。

募集要件

分科会において発表すること
応募者は，経済協力開発機構（OECD）の開発援助委員会（DAC）の援助受取国・地域リストに掲載された国又は地域の研究者であること

応募方法

公式ホームページを確認のうえ，分科会の発表申込みと併せて，オンライン受付システムから申請してください。

１次審査

分科会発表応募に際して提出されたプロシーディングス論文を審査し約30編を一次審査通過とします。

最終審査

１次審査通過者は，最終審査のためのフルペーパーを，平成30年６月下旬以降，指定される期日までに提出してください。日時の詳細は後日お知らせします。
最終審査の結果は，平成30年９月下旬までにお知らせします。
受賞者は第17回世界湖沼会議の分科会において，研究内容を発表する必要があります。

参加登録

1 登録区分と登録料

		通し参加料金（単位：円）			一日参加料金（単位：円）	
		早　期	通　常	当　日	事　前	当　日
期　間		2/5～7/16	7/17～9/14	10/14～10/19	2/5～9/14	10/14～10/19
区分	一　般	16,000	18,000	20,000	4,500 【県民1,000】	5,000 【県民1,000】
	学　生 （大学生・院生）	10,000		12,000	2,500 【県民1,000】	3,000 【県民1,000】
	同伴者 （親族）	4,000			1,000	

《注　意》

（1）高校生以下（学生証の提示が必要）は無料です。

（2）多くの茨城県民の方々に参加していただくため，茨城県民特別料金（1日 1,000円）を設定します。
ただし，茨城県民特別料金での参加者（茨城県内に居住，通勤若しくは通学）は，分科会等での発表はできません。
またコングレスキット等の配布もありません。

（3）途上国からの参加者については，途上国料金を設けます。詳細は公式ホームページ（英語版）をご覧ください。

（4）学生（大学生・院生）の通し参加料金は2018年3月2日付けで変更しました。

2 オプション料金

以下の料金については，参加者区分，登録時期にかかわらず同一料金です。

▶歓迎パーティー（10/14）　5，000円　▶参加者交流会（10/18）　5，000円
▶エクスカーション（10/17）　2，000円

※ただし，申込多数の場合，ご希望に沿えない場合があります。

3 登録方法

公式ホームページの参加登録ページURL ： http://www.wlc17ibaraki.jp/registration.html

公式ホームページよりオンラインを通してお申し込みいただき，参加登録料をお支払いください。お支払方法はクレジットカード（Visa, Master, JCB, Diners, American Express）または銀行振込の2通りとなります。銀行振込でのお支払いを選択された方は，確認画面に銀行情報が表示されますので指定の金額を期日までにお振込ください。

振込手数料はご本人でご負担いただきますようお願いします。

お支払いが確認でき次第，参加登録完了のメールをお送りします。

4 キャンセルポリシー

事前参加登録を取り消される場合は，事務局までメールにてお知らせください。
取消日によって以下の通りのキャンセル料金を申し受け，キャンセル料金および送金手数料を引いた金額を会議終了後に返金します。

平成30年9月15日以降のキャンセルにつきましては原則として返金いたしませんので，あらかじめご了承ください。

また，当日の不参加に関しましても返金いたしません。なお，海外送金の場合は別途為替変動の影響をうける可能性がありますのでご了承ください。

キャンセルの受付期間	2/5～7/16	7/17～9/14	9/15～
キャンセル料金	登録料の20%	登録料の50%	登録料の100%

5 途上国参加者旅費等助成制度

湖沼環境について様々な問題を抱え，先進国の取組を学ぼうとする途上国からの参加を促進することを目的とし，以下の条件・内容で途上国からの分科会発表者に対し，旅費等を助成します。

詳細は第17回世界湖沼会議の公式ホームページをご確認ください。

【対象者】

経済協力開発機構（OECD）の開発援助委員会（DAC）の援助受取国・地域リストに掲載された国または地域からの分科会発表者とします。

【要　件】

以下の全ての要件を満たすこととします。

① 10月14日（日）開催の学生会議に参加すること
② 分科会において自らが論文を発表（口頭またはポスターによる。）すること
③ エクスカーションに参加すること（ただし，費用は免除）
④ 茨城県が指定する宿泊施設に宿泊すること

【対象経費】

① 航空運賃（往復，エコノミー）　※別途作成する国別航空券費用見合表に基づき，対象者の住所をもとに算定します。
② 宿泊費　※県が指定する宿泊施設における6泊7日の宿泊費（10/13～19，1泊朝食付き）
③ 参加登録料（免除）
④ エクスカーション視察費（免除）

【対象者の決定】

要件をみたす対象者のうち，援助受取国・地域リスト（別表）の優先度の高い国及び地域（「後発開発途上国」を最優先とし，以下「低所得国」「低中所得国」「高中所得国」の順とする。）の者とします。ただし，これによりがたい場合は以下の基準を勘案して総合的に決定します。

① 論文に係る審査の評価が高いこと
② 分科会において自らが論文を口頭で発表すること

【申請方法】

公式ホームページを確認のうえ，分科会の発表申込みと併せて，オンライン受付システムから申請してください。

※いばらき霞ヶ浦賞と併せて申請することができます。

【対象者への通知】

分科会の発表の採否の通知と併せて，必要事項（支給方法，宿泊場所，宿泊期間等）を通知します。

（2018年～2020年実績に適用）

政府開発援助（ODA）対象国						
後発開発途上国（LDCs）		低所得国（LICs） 一人当たりGNI $1,005以下	低中所得国（LMICs） 一人当たりGNI $1,006-$3,955以下		高中所得国（UMICs） 一人当たりGNI $3,956-$12,235以下	
アフガニスタン アンゴラ イエメン ウガンダ エチオピア エリトリア ガンビア カンボジア ギニア ギニアビサウ キリバス コモロ コンゴ民主共和国 サントメ・プリンシペ ザンビア シエラレオネ ジブチ スーダン セネガル ソマリア ソロモン タンザニア チャド 中央アフリカ ツバル トーゴ ニジェール ネパール ハイチ バヌアツ バングラデシュ	東ティモール ブータン ブルキナファソ ブルンジ ベナン マダガスカル マラウイ マリ 南スーダン ミャンマー モーリタニア モザンビーク ラオス リベリア ルワンダ レソト	北朝鮮 ジンバブエ	アルメニア インド インドネシア ウクライナ ウズベキスタン エジプト エルサルバドル ガーナ カーボヴェルデ カメルーン キルギス グアテマラ ケニア コートジボワール コソボ コンゴ共和国 ジョージア シリア スリランカ スワジランド タジキスタン チュニジア トケラウ ナイジェリア ニカラグア パキスタン パプアニューギニア パレスチナ自治区 フィリピン ベトナム ボリビア ホンジュラス	ミクロネシア連邦 モルドバ モロッコ モンゴル ヨルダン川西岸地区及びガザ地区	アゼルバイジャン アルジェリア アルゼンチン アルバニア アンティグア・バーブーダ イラク イラン ウルグアイ エクアドル ガイアナ カザフスタン ガボン キューバ クック グレナダ コスタリカ コロンビア サモア ジャマイカ スリナム セーシェル 赤道ギニア セルビア セント・ヘレナ セントビンセント及びグレナディーン諸島 セントルシア タイ 中国 チリ ドミニカ共和国 ドミニカ国 トルクメニスタン トルコ トンガ	ナウル ナミビア ニウエ パナマ パラオ パラグアイ フィジー ブラジル ベネズエラ ベラルーシ ベリーズ ペルー ボスニア・ヘルツェゴビナ ボツワナ マーシャル マケドニア旧ユーゴスラビア共和国 マレーシア 南アフリカ メキシコ モーリシャス モルディブ モンセラット モンテネグロ リビア レバノン ワリス・フテュナ

茨城県の紹介

茨城県は，筑波山や霞ヶ浦，総延長190キロメートルに及ぶ海岸線など，豊かな自然と暮らしやすい気候風土，特色ある歴史・文化に恵まれているほか，世界最先端の科学技術や高度なものづくり産業の集積に加え，全国第2位の産出額を誇る農業や着実に整備が進む陸・海・空の広域交通ネットワークなど，様々な魅力にあふれた地域です。

竜神大吊橋

つくば霞ヶ浦りんりんロード

アクアワールド茨城県大洗水族館

筑波山

茨城県自然博物館

霞ヶ浦のワカサギ

宿泊施設

参考ホームページ 茨城県公式観光情報サイト「観光いばらき」

http://www.ibarakiguide.jp/stay.html

茨城県内の宿泊施設は上記URLをご覧ください。

組　織

（平成30年2月5日現在）敬称略, 五十音順

1 第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会

会　長	大井川　和彦	茨城県知事
副会長	竹本　和彦	公益財団法人国際湖沼環境委員会理事長
副会長	菊地　健太郎	茨城県副知事（生活環境部担当）
委　員	五十嵐　立青	つくば市長
	石川　信	日本放送協会水戸放送局長
	市村　和男	世界湖沼会議市民の会’１８会長
	井邊　時雄	国立研究開発法人農研機構理事長
	薄井　征記	霞ヶ浦漁業協同組合代表理事組合長
	海老澤　武美	きたうら広域漁業協同組合代表理事組合長
	小田部　卓	株式会社茨城新聞社代表取締役社長
	鬼澤　邦夫	茨城産業会議議長
	小野寺　俊	茨城県副知事
	菊池　敏行	茨城県議会議長
	岸田　一夫	鉾田市長
	北島　重司	株式会社茨城放送代表取締役社長
	甲村　謙友	独立行政法人水資源機構理事長
	小林　宣夫	茨城町長, ラムサール条約登録湿地ひぬまの会長
	櫻井　よう子	茨城県地域女性団体連絡会長
	佐野　治	茨城県農業協同組合中央会長, 公益社団法人茨城県畜産協会長
	染谷　森雄	茨城県町村会長
	高杉　則行	茨城県内水面漁業協同組合連合会代表理事会長
	高橋　靖	水戸市長
	坪井　透	かすみがうら市長
	中川　清	茨城県市長会長, 土浦市長, 霞ヶ浦問題協議会長
	永田　恭介	国立大学法人筑波大学長
	中山　一生	茨城県河川協会長
	西川　和廣	国立研究開発法人土木研究所理事長
	幡谷　浩史	大好きいばらき県民会議理事長
	早水　輝好	環境省水・大気環境局長
	別所　智博	農林水産省技術総括審議官兼農林水産技術会議事務局長
	松井　三郎	世界湖沼会議企画推進委員会委員長
	三村　信男	国立大学法人茨城大学長
	森　淑子	茨城県女性団体連盟会長
	山田　邦博	国土交通省水管理・国土保全局長
	渡辺　知保	国立研究開発法人国立環境研究所理事長
監　事	今関　裕夫	茨城県市長会・町村会常務理事兼事務局長
	森田　百合子	茨城県会計管理者

2 企画推進委員会

委員長	松井　三郎	公益財団法人国際湖沼環境委員会評議員
副委員長	福島　武彦	茨城県霞ケ浦環境科学センター長
副委員長	中村　正久	公益財団法人国際湖沼環境委員会副理事長
委　員	阿部　薫	国立研究開発法人農研機構農業環境変動研究センター物質循環研究領域長
	飯野　哲雄	つくば市副市長
	市木　繁和	公益財団法人国際湖沼環境委員会事務局長
	市村　和男	世界湖沼会議市民の会'１８会長
	今井　章雄	国立研究開発法人国立環境研究所フェロー, 琵琶湖分室長
	内海　真生	国立大学法人筑波大学生命環境系准教授
	大友　哲也	農林水産省大臣官房参事官（環境政策）
	小野　芳朗	公益社団法人日本水環境学会長, 国立大学法人京都工芸繊維大学教授・副学長
	香川　眞	流通経済大学名誉教授
	神矢　弘	独立行政法人水資源機構ダム事業本部ダム事業部長
	黒田　久雄	国立大学法人茨城大学農学部地域総合農学科教授
	小林　稔	国土交通省関東地方整備局河川部長
	五頭　英明	土浦市副市長
	近藤　慶一	茨城県生活環境部長
	酒井　和二	茨城町副町長
	塩屋　俊一	農林水産省関東農政局農村振興部長
	田尻　充	水戸市副市長
	堤　義雄	大好きいばらき県民会議専務理事
	中村　玲子	ラムサールセンター事務局長
	森　吉尚	国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ長
	森川　幹夫	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課長
	山野　博哉	国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター長
	横瀬　典生	かすみがうら市副市長
	渡邊　康正	環境省水・大気環境局水環境課長
	欠　員	鉾田市副市長

3 分科会運営委員会

委員長	福島　武彦	茨城県霞ケ浦環境科学センター長
委　員	天野　邦彦	国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部長
	今井　章雄	国立研究開発法人国立環境研究所フェロー, 琵琶湖分室長
	小川　かほる	小川かほる環境教育事務所代表
	香川　眞	流通経済大学名誉教授
	黒田　久雄	国立大学法人茨城大学農学部地域総合農学科教授
	田中　宏明	国立大学法人京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター教授
	中村　正久	公益財団法人国際湖沼環境委員会副理事長
	古米　弘明	国立大学法人東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター教授
	山野　博哉	国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター長

4 分科会検討部会

第1分科会	部会長	山野　博哉	国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター長
		傳田　正利	国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム主任研究員
		西廣　淳	東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授
		馬渕　浩司	国立研究開発法人国立環境研究所琵琶湖分室主任研究員
		吉田　丈人	国立大学法人東京大学総合文化研究科准教授
第2分科会	部会長	天野　邦彦	国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部長
		梅田　信	国立大学法人東北大学大学院工学研究科准教授
		片岡　稔温	独立行政法人水資源機構利根川下流総合管理所環境課長
		工藤　美紀男	国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所副所長
		矢島　啓	国立大学法人島根大学研究・学術情報機構エスチュアリー研究センター教授, 副センター長
第3分科会	部会長	今井　章雄	国立研究開発法人国立環境研究所フェロー, 琵琶湖分室長
		内海　真生	国立大学法人筑波大学生命環境系准教授
		苅部　甚一	国立大学法人茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター助教
		高津　文人	国立研究開発法人国立環境研究所地域環境研究センター湖沼・河川研究室長
		早川　和秀	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター総合解析部門副部門長
第4分科会	部会長	香川　眞	流通経済大学名誉教授
		田簑　健太郎	流通経済大学大学院スポーツ健康科学部スポーツ健康科学研究科教授
		永井　博	茨城県立歴史館史料学芸部長
		永野　聡	国立大学法人三重大学地域人材教育開発機構講師
		沼澤　篤	一般社団法人霞ヶ浦市民協会研究顧問
		楊　平	滋賀県立琵琶湖博物館主任学芸員
		若月　博延	金城大学短期大学部ビジネス実務学科准教授
第5分科会	部会長	黒田　久雄	国立大学法人茨城大学農学部地域総合農学科教授
		江口　定夫	国立研究開発法人農研機構 農業環境変動研究センター物質循環研究領域水質影響評価ユニット長
		久保田　富次郎	国立研究開発法人農研機構 農村工学研究部門地域資源工学研究領域水文水資源ユニット長
		仁科　一哉	国立研究開発法人国立環境研究所地域環境研究センター土壌環境研究室主任研究員
		山岡　賢	国立研究開発法人農研機構 農村工学研究部門水利工学研究領域水域環境ユニット長
第6分科会	部会長	田中　宏明	国立大学法人京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター教授
		圓佛　伊智朗	株式会社日立製作所研究開発グループ日立研究所材料イノベーションセンタ主管研究員
		萱場　祐一	国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ上席研究員, 自然共生センター長
		田尾　博明	国立研究開発法人産業技術総合研究所四国センター所長
		中野　伸一	国立大学法人京都大学生態学研究センター教授
		松下　文経	国立大学法人筑波大学生命環境系准教授
第7分科会	部会長	古米　弘明	国立大学法人東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター教授
		春日　郁朗	国立大学法人東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻都市環境工学講座水環境制御研究室准教授
		小松　一弘	国立研究開発法人国立環境研究所地域環境研究センター湖沼・河川環境研究室主任研究員
		田中　仁志	埼玉県環境科学国際センター水環境担当部長
		藤田　昌史	国立大学法人茨城大学工学部都市システム工学科准教授

第8分科会	部会長	小川　かほる	小川かほる環境教育事務所代表
		井手　慎司	公立大学法人滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科教授
		及川　ひろみ	認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会理事長
		川嶋　宗継	国立大学法人滋賀大学名誉教授
		原田　泰	NPO法人霞ヶ浦アカデミー理事
第9分科会	部会長	中村　正久	公益財団法人国際湖沼環境委員会副理事長
		遠藤　功	公益財団法人地球環境戦略研究機関プログラムマネージャー
		平山　奈央子	公立大学法人滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科助教
		和田　桂子	公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構琵琶湖・淀川水質浄化研究所副所長
		Victor Shiholo Muhandiki	国立大学法人名古屋大学リーディング大学院推進機構本部共通業務実施部門特任教授

5 霞ヶ浦セッション委員会

委員長	福島　武彦	茨城県霞ケ浦環境科学センター長
委　員	薄井　征記	霞ヶ浦漁業協同組合代表理事組合長
	内海　真生	国立大学法人筑波大学生命環境系准教授
	海老澤　武美	きたうら広域漁業協同組合代表理事組合長
	影山　希世	国土交通省関東地方整備局河川部河川環境課長
	小林　富夫	農林水産省関東農政局生産部生産技術環境課長
	佐野　元彦	公益社団法人茨城県畜産協会専務理事
	鈴木　幸雄	茨城産業会議（かすみがうら市商工会副会長）
	滝下　利男	世界湖沼会議市民の会'18副会長（霞セッション）
	田崎　守一	かすみがうら市環境経済部環境保全課長
	辰野　剛志	国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所長
	土子　智之	鉾田市市民部生活環境課長
	深谷　伊知郎	茨城県農業協同組合中央会専務理事
	松崎　慎一郎	国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター主任研究員
	水田　和広	土浦市市民生活部環境保全課長
	渡邊　康正	環境省水・大気環境局水環境課長

6 湖沼セッション委員会

福島　武彦	茨城県霞ケ浦環境科学センター長
赤津　康明	大好きいばらき県民会議事務局長
阿部　薫	国立研究開発法人農研機構農業環境変動研究センター物質循環研究領域長
井手　慎司	公立大学法人滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科教授
今井　章雄	国立研究開発法人国立環境研究所フェロー, 琵琶湖分室長
奥田　晃久	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課河川環境保全調整官
影山　希世	国土交通省関東地方整備局河川部河川環境課長
勝山　利治	茨城町生活経済部みどり環境課長
高津　文人	国立研究開発法人国立環境研究所地域環境研究センター湖沼・河川環境研究室長
小松　直樹	滋賀県琵琶湖環境部技監
徐　開欽	国立研究開発法人国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター主席研究員
中村　玲子	ラムサールセンター事務局長
林　栄一	水戸市生活環境部環境課長
森　吉尚	国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ長
渡邉　浩太郎	千葉県県土整備部河川環境課長
渡邊　康正	環境省水・大気環境局水環境課長

7 サテライト会場連絡調整委員会

委員長	桑名　美恵子	茨城県生活環境部環境対策課長
委　員	阿部　彰	世界湖沼会議市民の会'18副会長（一般社団法人霞ヶ浦市民協会, 土浦市担当）
	飯塚　敏夫	世界湖沼会議市民の会'18副会長（かすみがうら市家庭排水浄化推進協議会, かすみがうら市担当）
	大曽根　政幸	世界湖沼会議市民の会'18副会長（世界湖沼会議北浦北部地域推進会議, 鉾田市担当）
	勝山　利治	茨城町生活経済部みどり環境課長
	工藤　美紀男	国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所副所長
	小池　聖彦	国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦導水工事事務所副所長
	髙橋　正道	世界湖沼会議市民の会'18副会長（水戸市環境保全会議, 水戸市担当）
	田﨑　守一	かすみがうら市環境経済部環境保全課長
	土子　智之	鉾田市市民部生活環境課長
	林　栄一	水戸市生活環境部環境課長
	水田　和広	土浦市市民生活部環境保全課長
	武藤　健治	国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所副所長
	谷萩　八重子	世界湖沼会議市民の会'18副会長（クリーンアップひぬまネットワーク, 茨城町担当）

8 学生会議委員会

委員長	桑名　美恵子	茨城県生活環境部環境対策課長
委　員	阿部　治	立教大学社会学部・同大学院教授
	市木　繁和	公益財団法人国際湖沼環境委員会事務局長
	川嶋　宗継	国立大学法人滋賀大学名誉教授
	川松　秀夫	茨城県高等学校長協会（茨城県立鬼怒商業高等学校校長）
	陶　慶一	茨城県学校長会（水戸市立上大野小学校校長）
	田代　淳一	茨城県私学協会（茗渓学園中学校高等学校校長）
	西川　朗	滋賀県教育委員会事務局高校教育課参事
	沼田　安広	株式会社茨城新聞社常務取締役
	原口　弥生	国立大学法人茨城大学人文社会科学部教授

案内図

会　場　つくば国際会議場

つくば国際会議場は，筑波研究学園都市における研究交流機能の強化，コンベンションの開催に伴う地域経済の活性化を目的として建設され，2016年（平成28年）には，G7茨城・つくば科学技術大臣会合の会場となりました。

今後のご案内

第3回開催案内書は，2018年（平成30年）9月頃の発行を予定しています。

問い合わせ先

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）
実行委員会事務局

〒310-8555
茨城県水戸市笠原町978番6
茨城県生活環境部環境対策課内

TEL　：029-301-2995
FAX　：029-301-2969
Email ：wlc17@pref.ibaraki.lg.jp

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）
運営事務局

〒102-0075
東京都千代田区三番町2
株式会社コンベンションリンケージ内

TEL　：03-3263-8695
FAX　：03-3263-8693
Email ：cl-wlc17@c-linkage.co.jp

茨城県　世界湖沼会議

http://www.wlc17ibaraki.jp/

内容につきましては，変更になる場合がありますので予めご了承ください。

写真提供：国土交通省，秋田県仙北市，土浦市，かすみがうら市，鉾田市，茨城町，水戸市，一般社団法人霞ヶ浦市民協会，つくば国際会議場

2018年2月発行